

## ＜特集＞新しい学習指導要領に基づく学習評価の改善（高等学校） ～ 指導の重点化を反映した「指導と評価の計画」の作成 ～

高等学校では、今年度より年次進行で「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」（以下「新学習指導要領」という。）及び「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編」（以下「新学習指導要領解説」又は「解説」という。）に基づいた指導と評価を行うこととなった。このことから、「高等学校学習指導要領（平成21年告示）」（以下「現行学習指導要領」という。）と新学習指導要領の学年が混在する令和5年度までの指導と評価については、P35の「新学習指導要領の段階的な実施に伴う学習指導計画作成上の留意点（高等学校）」を確認の上、適切に進めていただきたい。

ここでは、新学習指導要領実施に当たっての指導と評価の主なポイントを示す。

### 1 学習評価の基本的な考え方について

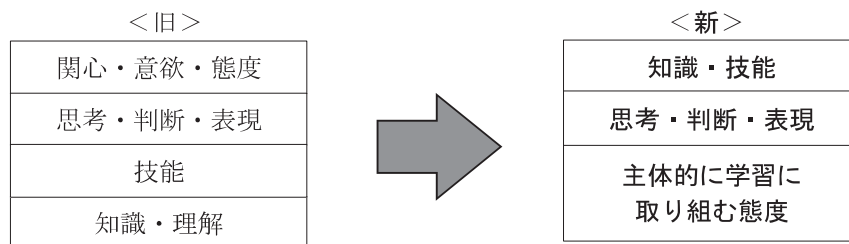
#### (1) 学習評価の改善の基本的な方向性

次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとするのが重要である。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

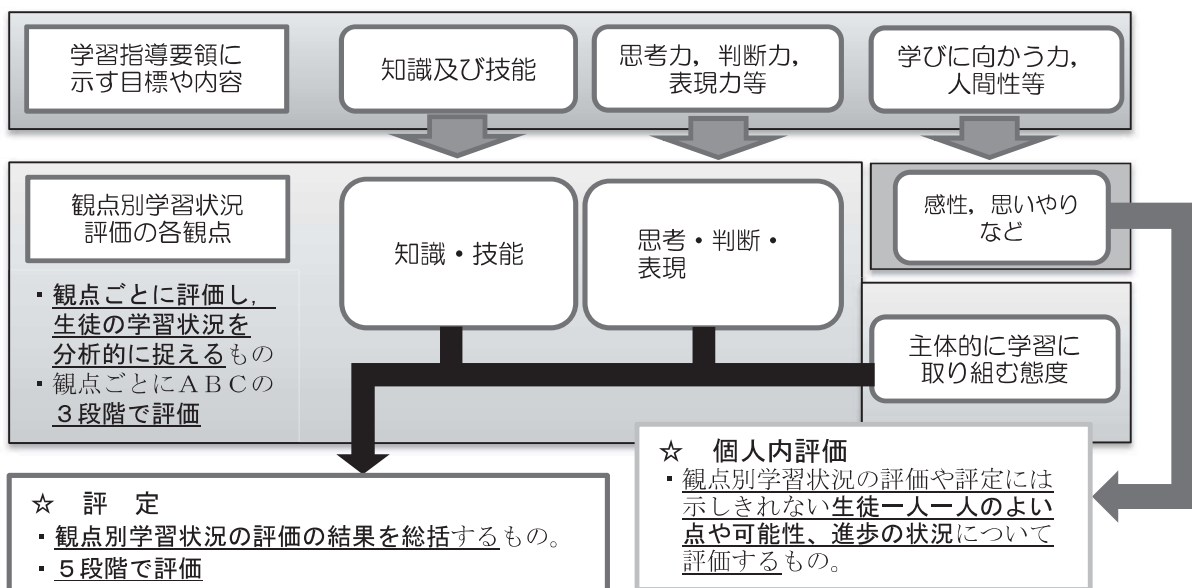
#### (2) 観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理された。



<参考>平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（以下「改善等通知」）

#### (3) 評価の基本構造



## 2 科目体育における三つの資質・能力の指導内容について

解説 P33から P41に「入学年次」と「入学年次の次の年次以降」ごとに示されている。各学校において扱う領域・単元を通して、各内容を計画的に指導し育成させていくことが大切である。

### (1) 「知識及び技能」(何を理解しているか、何ができるか)

#### ○ 知識

体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識(何を行うのか)と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識(何のために行うのか)で示している。

#### 〈知識の主な表記〉

	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
1	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則	・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方
2	・技術(技)の名称や行い方	・技術(技)の名称や行い方
3	・体力の高め方	・体力の高め方
4	・伝統的な考え方	・伝統的な考え方
5	・交流や発表の仕方 ・踊りの特徴と表現の仕方	・競技会、試合、発表の仕方 ・文化的背景と表現の仕方
6	・運動観察の方法 ・見取り稽古の仕方	・課題解決の方法 ・見取り稽古の仕方

#### ○ 技能

運動を通して、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを深く味わうことを示すとともに、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相などを示している。

### (2) 「思考力、判断力、表現力等」(理解していること、できることをどう使うか)

各領域に共通して、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることを示している。

#### 〈思考力、判断力、表現力等の主な表記〉

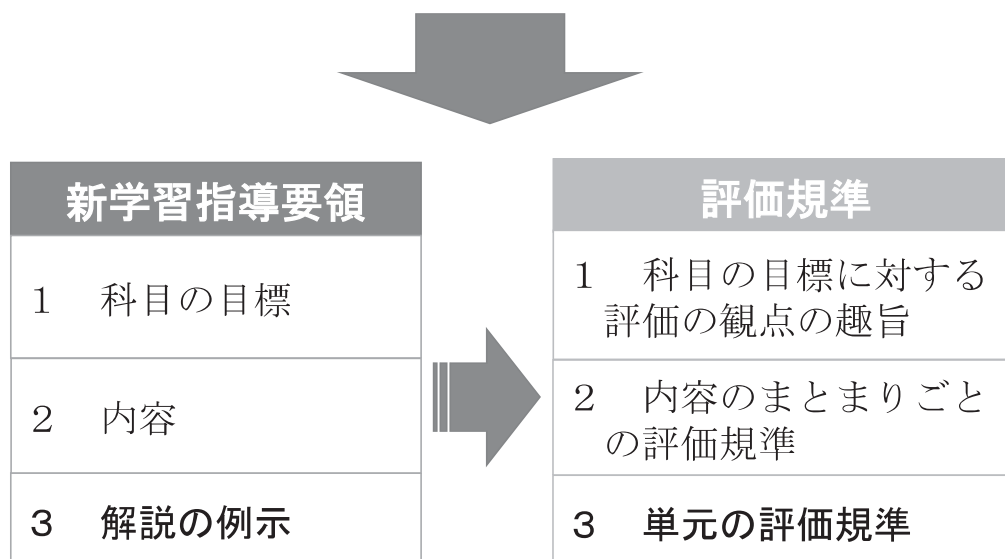
	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
1 体の動かし方や行い方	・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントと理由を伝える	・動きを分析して良い点や修正点を指摘する
	・自己や仲間の課題や練習方法について伝える	・課題解決のための練習の計画を立てる
2 体力や健康・安全	・体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る	・危険を回避するための活動の仕方を提案する
	・運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ	
3 運動実践につながる態度	公正	・よりよいマナーや行為(所作)について自己の活動を振り返る
	協力責任	・よりよいルールやマナー(所作)について提案する
	参画	・状況に応じて役割を提案する
	共生	・合意形成するための調整の仕方を見付ける
4 生涯スポーツの設計	・合意形成するための関わり方を見付け、伝える	・合意形成するための調整の仕方を見付ける
	・違いに配慮して楽しむ活動の仕方や修正の仕方を見付ける	・違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付ける
	・運動を継続して楽しむための関わり方を見付ける	・生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける

- (3) 「学びに向かう力、人間性等」(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)  
 各領域において愛好的態度及び健康・安全は共通の事項とし、公正(伝統的な行動の仕方)、協力・責任、参画・共生の中から、各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。  
 〈学びに向かう力、人間性等の主な表記〉

	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	・自主的に取り組もうとする	・主体的に取り組もうとする
イ 公正	・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	・フェアなプレイを大切にしようとする	
	・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
ウ 協力・責任	・よい演技を讃えようとする	
	・互いに助け合い教え合おうとする	・互いに助け合い高め合おうとする
	・自己の責任を果たそうとする	・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ 参画・共生	・話し合いに貢献しようとする	・合意形成に貢献しようとする
	・一人一人の違いを大切にしようとする	
オ 健康・安全	・健康・安全を確保する	

### 3 「新学習指導要領及び解説」と「評価規準」の関係について

新学習指導要領の「教科の目標」	改善等通知の「評価の観点及びその趣旨」
(1) 知識及び技能に関する目標	観点「知識・技能」の趣旨
(2) 思考力、判断力、表現力等に関する目標	観点「思考・判断・表現」の趣旨
(3) 学びに向かう力、人間性等に関する目標	観点「主体的に学習に取り組む態度」の趣旨



新学習指導要領に記載されている各教科の「第1款 目標」等を踏まえて、評価規準の基となる「評価の観点及びその趣旨」(改善等通知 別紙5)が作成されている。

これを受け、新学習指導要領及び解説と評価規準は、上図のような関係性を伴っている。具体的には、三つの資質・能力ごとに示されている新学習指導要領「2 内容」の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を「内容のまとまりごとの評価規準」と呼んでいる。そして、その指導内容を一層明確化・具体化するため、新学習指導要領解説において、内容のまとまりごとに、育成を目指す資質・能力の指導内容に例示が示されている。この例示の文末表現を変換等することで、内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」となる。

#### 4 保健体育科における「内容のまとめり」について

学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化し整理したものである。

##### 【高等学校保健体育科の内容のまとめり】

第1 体育 〔入学年次〕	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展
〔入学年次の 次の年次以降〕	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方
第2 保健	(1) 現代社会と健康 (2) 安全な社会生活 (3) 生涯を通じる健康 (4) 健康を支える環境づくり

#### 5-1 指導と評価の進め方～科目体育編～(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) P59より)

指導と評価の一体化に向けた観点別学習評価を進めるに当たっては、「指導と評価の計画」を作成することが重要である。そして、作成した計画を基に授業・評価を行い、計画の見直し等をしながら、最終的に観点ごとに総括することとなる。以下に、作成手順の例を示す。

手順1：内容の取扱い等を踏まえた上で、年間指導計画に各単元を位置付ける。

手順2：授業担当者間で各単元の指導事項の共通化を図る。

手順3：内容のまとめりにおける指導事項をバランスよく配置（指導事項の重点化）し、単元の目標を設定する。

手順4：内容のまとめりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。

手順5：当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

手順6：単元の指導と評価の計画を作成する。

それぞれの手順について、例として、A高等学校「それ以降の年次」における「器械運動」を取り上げ、説明する。なお、年次の表記については、以下のとおりとする。

- ・ 1年次 → 入学年次
- ・ 2年次 → その次の年次
- ・ 3年次以降 → それ以降の年次
- ・ 2年次以降 → その次の年次以降

手順 1 内容の取扱い等を踏まえた上で、年間指導計画に各単元を位置付ける。

(表1 A高等学校における年間指導計画)

科目	履修	学年	単元	4			5			6			7			9			10			11			12			1			2			3				
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
体育	必修	入学年次	3	オリエンテーション	体づくり運動[5]			理論[3]			3領域選択Ⅰ[18] 陸上競技(走種目)・器械運動(4種目から2)・ダンス(現代的なリズムのダンス) 3クラス3展開			3領域選択Ⅱ[18] 陸上競技(跳、投)・水泳(立泳法)・ダンス(創作ダンス)選択 3クラス3展開			球技・武道選択Ⅰ[16] 球技(サッカー)、ネット型(テニス)、武道(柔道) 3クラス3展開			球技・武道選択Ⅱ[16] 球技(バスケットボール)、ネット型(バレーボール)、武道(柔道) 陸上競技[4] 長距離走			体づくり運動[5]			理論[3]			球技・武道選択Ⅲ[16] 球技(ゴールキーパー)、ベースボール型(フットボール)、武道(剣道) 3クラス3展開									
				オリエンテーション	体づくり運動[3]	3領域選択Ⅰ[14]			3領域選択Ⅱ[14]			3領域選択Ⅲ[24]			理論[3]	陸上競技[4]	長距離走	理論[3]			選択Ⅲ継続			体づくり運動[4]														
				オリエンテーション	体づくり運動[5]	理論[3]	全領域選択(マイ・スポーツ)Ⅱ[18] 全領域から実施アンケートを行い、希望した領域を年間で配置している。(3クラス3展開) 例)球技ネット型(テニス)、陸上競技(走、跳、投選)、器械運動(4種目から選択)			全領域選択(マイ・スポーツ)Ⅲ[18] 例)球技(サッカー)、水泳、ネット型(バレーボール)、武道(柔道)			全領域選択(マイ・スポーツ)Ⅳ[31] 希望上位3種目を配置(前期選択領域以外を選択) 例)球技(バスケットボール)、ラグビー、ダンス(現代的なリズムのダンス)			体づくり運動[5]	陸上競技[6]	長距離走	理論[3]			全領域選択(マイ・スポーツ)Ⅴ継続			全領域選択Ⅳ													
保健	必修	入学年次	1	現代社会と健康															安全な社会生活																			
				健康の考え方[5]			現代の感染症とその予防[5]			生活習慣病の予防と対策[5]			喫煙、飲酒、薬物乱用と健康[5]			精神疾患の予防と回復[5]			安全な社会づくり[5]					応急手当[5]														
				生涯を通じる健康															健康を支える環境づくり																			
保健	必修	2	1	生涯の各段階における健康[5]					労働と健康[5]					環境と健康[5]					食品と健康[5]					栄養摂取と健康[4]					保健活動[3]					環境づくり[3]				

(1) 年間指導計画を作成する上での留意点

- ア 入学年次では、義務教育段階との接続を重視し、教師の積極的な働きかけを通して中学校第3学年からの指導内容の確実な定着を図る段階である。A高等学校では、入学年次において中学校段階で実施した運動種目に関するアンケートを行い、指導事項の配置や指導と評価の計画の作成に活用している。
- イ その次の年次以降では、生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成に本格的に取り組む段階である。
  - ・ その次の年次では、選択できる領域を広げ、更に追求したい領域、課題を克服したい領域等の学習にじっくり取り組むことができるよう指導計画を工夫している。
  - ・ それ以降の年次では、選択した領域の学習に主体的に取り組むことができるよう、選択できる領域を可能な範囲で拡大し、生徒個々の意思を大切にしたい領域選択が実現できる指導計画の工夫をしている。
- ウ 学習指導要領の「内容の取扱い」において、「その次の年次以降においては「B器械運動」から「Gダンス」までの中から二つ以上を選択して履修できるようにすること」としていることを踏まえ、生徒の実態やアンケート結果等を考慮し、安全を十分に確保した上で、3領域から選択する単元や全領域から選択する単元を構成し、年間指導計画に位置付けている。

(2) 本事例で取り上げる「器械運動」について

器械運動は、「その次の年次」で14時間、「それ以降の年次」で18時間、4月から6月にかけて計画している。例として取り上げる「それ以降の年次」における器械運動は、領域選択により、器械運動・陸上競技・球技の3領域を同一の時間に展開している。



手順 2 授業担当者間で各単元の指導事項の共通化を図る。

(図1 領域選択授業における指導事項の共通化)

指導事項		3領域 I (その次の年次)			全領域 I (それ以降の年次)			主な評価方法
		器械運動 選択	陸上競技 選択	武道 選択	器械運動 選択	陸上競技 選択	武道 選択	
知識	1.技の名称や行い方	●	●	●	●	●	●	学習カード
	2.伝統的な考え方	/	/		/	/	/	
	3.体力の高め方	●	●	●				
	4.課題解決の方法	●	●	●				
	5.発表(競技会, 試合)の仕方				●	●	●	
指導事項の数		3	3	3	2	2	2	
技能	略							観察
思考力, 判断力, 表現力等	1.良い点や修正点を指摘する	●	●	●				学習カード
	2.自己や仲間の新たな課題を発見する	●	●	●				
	3.課題解決のための計画を立てる	●	●	●				
	4.危険を回避するための活動の仕方を提案する				●	●	●	
	5.役割を提案する		/	/	●	/		
	6.活動を振り返り, よりよいルールやマナー(所作)を提案する	/			/	●	●	
	7.合意を形成するための調整の仕方を見付ける	/	/	/	/	/		
	8.楽しむための調整の仕方を見付ける				●	●	●	
	9.生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける				●	●	●	
指導事項の数		3	3	3	4	4	4	
学びに向かう力, 人間性等	1.主体的に取り組もうとする	※	※	※	●	●	●	観察 (学習カード)
	2.ルールやマナーなどを大切にしようとする	/		/	/	●	●	
	3.伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	/	/		/	/	/	
	4.良い演技を讃えようとする	●	/	/		/	/	
	5.互いに助け合い高め合おうとする		/	/	●	/		
	6.自己の責任を果たそうとする	/	●	●	/		/	
	7.合意形成に貢献しようとする	/	/	/	/	/		
	8.一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする				●	●	●	
	9.健康・安全を確保する	●	●	●	※	※	※	
指導事項の数		2	2	2	3	3	3	

●:指導事項 ※:評価対象とせず指導する事項 /:例示に示されていない事項

高等学校においては、生徒自身が選択できるようにすることが原則であることから、選択した領域や領域の内容によって評価の格差が生じないように、並行して実践される領域や領域の内容間での指導事項等について、教師間で事前に検討し、共通理解を図ることが大切である。上の図では、各単元における指導事項（新学習指導要領解説に示されている例示の内容）について事前の調整を図っている。

手順 3 内容のまとまりにおける指導事項をバランスよく配置（指導事項の重点化）し、単元の目標を設定する。

(1) 内容のまとまりにおける指導事項をバランスよく配置

年間指導計画（表1）から、「それ以降の年次」における器械運動の指導事項の重点化を計画していく。これは、内容のまとまりごとの指導をより効果的・効率的に行うために、器械運動領域において、「その次の年次」及び「それ以降の年次」で指導すべき内容を整理し、系統的かつ偏りなく配置するために重要な手続きとなる。

つまり、P5の「2 科目体育における三つの資質・能力の指導内容（高校その次の年次以降）」を2年間かけて指導し、評価していくということとなる。（次頁 図2を参照）

(図2 その次の年次及びそれ以降の年次の「器械運動」における指導事項の配置)

指導事項	その次の年次 3領域選択 I 器械運動選択														それ以降の年次 全領域選択 I 器械運動選択																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
知識	1.技の名称や行い方	●		○	○	●													○	○	○	●												
	2.体力の高め方																																	
	3.課題解決の方法																																	
	4.発表の仕方																																	
技能	○回転技群																																	
	1.基本的な技を滑らかに安定させて回る																																	
	2.条件を変えて回る																																	
	3.発展させて一連の動きで回る																																	
○ほん転技群																																		
1.基本的な技を滑らかに安定させて回転する																																		
2.条件を変えて回転する																																		
3.発展させて一連の動きで回転する																																		
○平均立ち技群																																		
1.基本的な技を滑らかに安定させて回転する																																		
2.条件を変えて回転する																																		
3.発展させて一連の動きで回転する																																		
鉄棒運動	○切り返し跳びグループ																																	
	1.基本的な技を滑らかに安定させて飛び越す																																	
2.条件を変えて飛び越す																																		
3.発展させて一連の動きで飛び越す																																		
跳び箱運動	○回転跳びグループ																																	
	1.基本的な技を滑らかに安定させて飛び越す																																	
	2.条件を変えて飛び越す																																	
	3.発展させて一連の動きで飛び越す																																	
思考力、判断力、表現力等	1.技の行い方や組合わせ方の良い点や課題を発見する																																	
	2.自己や仲間の新たな課題を発見する																																	
	3.課題解決のための計画を立てる																																	
	4.高跳を回避するための活動の仕方を確立し、表現力を高める																																	
	5.役割を構築する																																	
学びに向かう力、人間性等	6.違いを超えて楽しむための積極的な発表を行うこと																																	
	7.生涯にわたって楽しむための練習方法を身に付ける																																	
	8.主体的に取り組もうとする																																	
	9.互いに助け合い高め合うこと																																	
	10.一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする																																	

- ・複数回での指導機会 (○印) …例えば、複数の技を指導する場合、「技の名称や行い方」の知識についてそれぞれの時間において指導するもの。
- ・選択指導機会 (△印) …例えば、技能について2種目選択する場合や、基本的な技・発展技などを選択して指導するもの。
- ・評価対象とせず指導のみの機会 (※印) …同一領域内で、同じ内容のまとまりの中で既に指導し評価している内容について、評価対象としないが再度指導するものなど。

(2) 単元の目標の設定

中央教育審議会答申(平成28年12月21日)では「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一まとまりのこと」としている。科目体育においては、領域において学期ごとに単元とする場合と複数の学期にまたがるものを単元と捉える考え方がある。また、選択制の授業において、複数の領域から選択した一つの領域の内容を単元と捉える場合も考えられる。そして、新学習指導要領解説において、各領域の内容のまとまりごとに、三つの資質・能力の指導内容が示されている。この指導内容の文末を「～することができるようにする。」と変換することで単元の目標となる。さらに、該当年次以外で指導し評価する部分については、( )をつけて示す。

本事例では、「その次の年次」で指導し評価する部分に ( ) をつけ単元の目標としている。

(表2 単元の目標の例)

<p>(1) 次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、(体力の高め方)、(課題解決の方法)、発表の仕方(など)を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。</p> <p>イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。</p> <p>ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。</p> <p>エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 器械運動に主体的に取り組むとともに、(よい演技を讀えようとする)、互いに助け合い高め合うこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする(など)や、(健康・安全を確保すること)ができるようにする。</p>
---

**手順 4** 内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。

新学習指導要領解説の〈例示〉の文末を変換するなどして作成する。今回、令和3年11月11日付け教高指第1795号「各教科・科目の評価規準（例）等の資料送付及び活用について」にて送付した『【保健体育】評価規準一覧（体育、保健、体育の各科目）』に、全ての「単元の評価規準」を掲載してあるので、参考にしていきたい。

なお、知識に関しては、一般的に認知された科学的なもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がない場合、例示の文末を「～について、言ったり、書き出したりしている。」とし、学校や生徒の実態に合わせて指導する教師により相違が予想される場合、例示の文末を「～について、学習した具体例を挙げている。」とすることに留意する。

評価規準作成のポイント：解説の〈例示〉の文末を変換		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 例示の文末を「～について、言ったり、書き出したりしている」あるいは「～について、学習した具体例を挙げている」として、評価規準を作成する。 ・前者は一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。後者は、学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。	例示の文末を「～している」として、評価規準を作成する。	意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、「～しようとしている」として評価規準を作成する。ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「～留意している」「～確保している」として、評価規準を作成する。
○技能 例示の文末を「～ができる」として、評価規準を作成する。		

**手順 5** 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

手順3で配置した指導事項に対応した単元の評価規準を、手順4で作成した全ての「単元の評価規準」の中から選択等して当該単元の「単元の評価規準」を設定する。

**手順 6** 単元の指導と評価の計画を作成する。

「単元の目標」、「指導内容がわかる学習の流れ」、「単元の評価規準」、「評価機会」を明確にする。その上で、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の指導内容をバランスよく配置し、それぞれの関連を図った指導場面や評価機会を位置付けるなど、観点別学習状況の評価の妥当性や信頼性を高める計画を作成することが重要である。その際、「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう評価の機会を適切に設定することなどに留意する。

次頁の図4において、本事例の概要を説明する。

「それ以降の年次」においては、その次の年次（2年次）までに器械運動を選択している生徒と初めて選択する生徒が混在していることが考えられる。そのため、「はじめの段階（診断的な段階）4時間」で、本単元の学習の流れについての見通し、器械運動に関わる知識（特性、健康・安全等）、基本的な技の復習及びポイントと自己の実現状況を確認させ、その次の年次までの学び直しの充実を図りつつ単元を通した自己の学習の計画を立てられるようにしている。

「なかの段階（形成的な段階）8時間」では、選択した運動種目及び目指す運動課題の設定に応じて課題の解決に取り組ませ、知識と技能を関連させた指導と評価を行っている。また、簡易な演技の発表会を



設定し、他者への肯定的な判定等と適切なアドバイスをしたり、演技しやすい場の工夫や規則（ルール）を考えたりするなどの場面を設定し、12時間目に「共生」の思考・判断・表現の評価を行っている。

「まとめの段階(総括的な段階)6時間」では、グループでの演技構成を考えて見せ合う場面を設定し、12時間目の思考力、判断力、表現力等の指導との関連を図りながら、14時間目に「共生」の主体的に学習に取り組む態度の評価を行っている。また、演技発表会を設定し、自己に適した技の選択及び構成を発表する中で、状況に応じて役割を提案するなどの場面を設定し、16時間目に「協力」の思考・判断・表現の評価を行っている。さらに、演技発表会の際は、主体的な取り組みの中で多様な関わり方を体験する場面を設定し、17時間目に「生涯スポーツの設計」の思考・判断・表現の評価と今までの学習活動を通して「主体的に取り組む態度」の評価へとつなげている。なお、最終の18時間目の総括的な評価の場面で、必要な観点や個々の生徒について最終確認を行う工夫をしている。

※下線部の評価は、指導場面に対応した評価機会として、図4の矢印で指導と評価の一体化を表記している。  
(図4 指導と評価の計画例)

※1 単元の目標	知識及び技能	次の運動について、我が身よりよくできたり自己や仲間の問題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、(体力の高め方、課題解決の方法、)発表の仕方(など)を理解するとともに、自己に適した技で演技することができるようにする。 アマット運動では、回転系や可変系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 イ 筋線運動では、支持系や可変系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 ウ 平均台運動では、回転系や可変系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 エ 飛び箱運動では、切り直し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができるようにする。																	
	思考力、判断力、表現力等	生活にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の問題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝えることができるようにする。																	
	学びに備える力、人間力等	器械運動に主体的に取り組むとともに、(良い演技を演じたようとする、)互いに助け合い高め合うこと、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする(などや、健康・安全を確保すること)ができるようになる。																	
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	※4 授業づくりのポイント
※2 学習の流れ	健康観察・準備運動・本時の目標・内容等の前読																		
	<div style="text-align: center;">             感覚づくり(ゆりかご・かえる結び・川渡り・ブリッジなど)         </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>○オリエー ション ・懸梯・ 安全の知 識の確認</p> <p>①習熟状況の確認 ②懸梯の復習 (学び直し)</p> <p>③主体的 練習</p> <p>④個別解決の 方針の確認</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○アマット運動と鉄棒 運動(両側の半分 で交代)</p> <p>○平均台運動と結び 箱運動(両側の半分 で交代)</p> <p>・自己に適した技の 選択及び練習</p> <p>・自己に適した技の 選択及び練習</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○「マット・鉄棒・ 平均台・結び箱」 の中から最終の演技選 択を互異なる2項目 の演技を構成する。</p> <p>・思いや修正点の 指導 ・新たな課題の発見 (ICT活用)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○懸梯演技発表会 (2項目・5つの 演技)</p> <p>・演技しやすい場や ルールを考える</p> <p>・思いや修正点の 指導 ・新たな課題の発見 (ICT活用)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○グループでのマッ ト運動の演技を考え 発表する</p> <p>・体かや後進及び 性別等の違いを確か めよう</p> <p>・発表会での役割を考 える</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○演技発表会 (得意な2種目・ 5つの技)(結び箱 は2つの技)</p> <p>・クラスで考えた後 別に応じて活動</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">整理運動・本時の振り返り・次の確認</p>																		
※3 評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	主な評価方法
知						①		①											学習カード 観察(ICT活用含む) 学習カード 観察(カード)
技						①or②or③		①or②or③											
思										①		③				②		④	
態											②							①	
単元の評価規準	①器械運動では、我が身、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技進の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した長体術を挙げている。 ②自己の能力に合った技で演技できたり、整った練習を構成したりするなどの発表に向けた演技構成の仕方があることについて、言ったり書き出したりしている。 ア マット運動(※イ 鉄棒運動)ウ 平均台運動 エ 結び箱運動(※イ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技群                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①新たに学習する基本的な技の 連の動きを滑らかに安定させて回転することができる。</li> <li>②開始姿勢や終末姿勢、組合せの動きや支持の仕方などの条件を変えて回転することができる。</li> <li>③学習した基本的な技を発展させて、一連の動きで回ることができる。</li> </ul> </li> <li>・応用技群                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて体を前後に振ることができる。</li> <li>②組合せの動きや振りなどの条件を変えて体を前後に振ることができる。</li> <li>③滑らかな基礎的な技を発展させて、一連の動きでひねりや跳び下りたりすることができる。</li> </ul> </li> </ul> ①練習や演技の場面では、自己や仲間の問題を解決するための運動の仕方を探している。 ②グループでの学習で、状況に応じて自己や仲間への役割を提案している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに器械運動を楽しむための運動の仕方を見つけている。 ④器械運動の学習成果を踏まえ、自己に適した「する、みる、伝える、知る」などの運動を生徒にわたって楽しむための関わり方を見つけている。 ①器械運動の学習に主体的に取り組むとしている。 ②自己や仲間の問題に応じた練習計画を見繕うなど、互いに助け合い高め合うとしている。 ③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。																		

今回、高等学校における新学習指導要領の年次進行に伴い、今後の「指導と評価の計画」の書き方については、単元の目標・学習の流れ及び評価機会・評価規準等が一体となった図4の形とする。以下に、作成上の留意点を示すとともに、本冊子の「高等学校 保健体育科学学習指導案」にて、実践例を掲載したので、参考にさせていただきたい。

※1 単元の目標について：手順 3 (2)を確認する。

※2 学習の流れについて：扱う単元における生徒の様相のゴールイメージを膨らませ、手順 3 (1)を基に、学習内容や活動を端的な表現で系統立てて組み立てる。その際、単元の評価規準となる内容について、【観点・番号・キーワード】で表記し、いつ指導するかがわかるようにする。

系統立てた組み立て方として、例えば、はじめに「態度」を含めた授業の行い方や進め方を指導し生徒に単元の見通しを持たせ、「知識」と「技能」を関連付けた指導を行う。身に付けた力(知識・技能)を活用して、「思考・判断・表現」をグループ学習等で指導し、より一層知識を深めたり技能を向上させたりしながら、「主体的に取り組む態度」を育成していくことが考えられる。

※3 評価機会について：指導内容をいつ（記録に残す）評価をするかを位置付ける。評価方法や評価機会については、下図のようなポイントがあることをおさえておくことが重要である。観点「知識」及び「思考・判断・表現」は、基本的に指導した時間に言ったり書いたりさせることで評価する。

一方、観点「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」は、指導してすぐに身に付くものではないことから、育成する期間を設ける必要があり、図4のような評価機会が考えられる。その際の工夫として、該当の指導内容をいつ評価する（見取る）かがわかるよう指導と評価の関連性を矢印で示す。

観点	評価方法	評価機会
知識	・知識：主に <b>学習カード等</b> ※観察評価を加味し妥当性、信頼性等を高める	・知識： <b>指導から期間を置かない</b>
技能(運動)	・技能：主に <b>観察評価</b>	・技能：指導後、 <b>一定の学習期間及び評価期間を設ける</b>
思考・判断・表現	主に <b>学習カード等</b> ※観察評価を加味し妥当性、信頼性等を高める	<b>指導から期間を置かない</b>
主体的に学習に取り組む態度	主に <b>観察評価</b>	指導後、 <b>一定の学習期間及び評価期間を設ける</b>

※4 授業づくりのポイントについて：本単元で指導するねらいや教師の指導観等を簡潔に記入する。その際、「三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する」ということを必ず書くようにする。また、特に重視して指導する観点やその学習を何のために行うか等を記入してもよい。

## 5-2 指導と評価の進め方～科目保健編～（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P52より）

基本的に、科目体育同様、年間指導計画に基づき、単元の目標・評価規準の設定等を行い、「指導と評価の計画」を作成していくこととなる。科目保健の単元では、内容のまとまりをそのまま「単元」として捉える場合と、内容のまとまりをいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が考えられる。単元設定の例を下図に示す。

内容のまとまり	単元例	学年*1	時数*2
(1) 現代社会と健康	(ア)健康の考え方	入学年次	4
	(イ)現代の感染症とその予防	入学年次	5
	(ウ)生活習慣病などの予防と回復	入学年次	4
	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	入学年次	7
	(オ)精神疾患の予防と回復	入学年次	4
(2) 安全な社会生活	(ア)安全な社会づくり	入学年次	5
	(イ)応急手当	入学年次	6
(3) 生涯を通じる健康	(ア)生涯の各段階における健康	その次の年次	7
	(イ)労働と健康	その次の年次	4
(4) 健康を支える環境づくり	(ア)環境と健康	その次の年次	5
	(イ)食品と健康	その次の年次	5
	(ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	その次の年次	6
	(エ)様々な保健活動や社会的対策	その次の年次	3
	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加	その次の年次	5

\*1 保健の履修学年については原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとなっている。単元設定および履修学年は各学校において検討の上決定することとなる。

\*2 単元の配当時数については、生徒の実態等を考慮し、各学校において決定する。ここでは、標準単位数が2であることを踏まえ、年間35時間で示した。

(1) 単元の目標について

新学習指導要領の目標や内容、解説等を踏まえるとともに、生徒の実態や前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

(2) 単元の評価規準について

科目体育と同様に、令和3年11月11日付け教高指第1795号「各教科・科目の評価規準（例）等の資料送付及び活用について」にて送付した『【保健体育】評価規準一覧（体育、保健、体育の各科目）』に掲載してあるので、参考にしていただきたい。

科目保健においては、生徒の実態等を考慮した上で、実際の学習活動に合わせた評価規準を作成することが大切である。なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関する内容は、新学習指導要領及び解説に示されていないことから、改善等通知の「評価の観点及びその趣旨」等を踏まえて作成する。

(3) 「指導と評価の計画」の作成に当たっての留意点について

科目体育と同様に、単元を通して3観点の評価のバランスを考慮しつつ、できるだけ1時間で行う評価を絞り、重点化する必要がある。

ア 「知識」の内容が多くなるが、全ての時間に記録に残す評価を入れるのではなく、関連する授業時間のまとまりで評価する工夫が考えられる。

イ 「技能」については、新学習指導要領の内容（2）安全な社会生活（イ）応急手当にのみ取り上げられている。指導する際は、知識を習得しながら実習を行うことができるような学習活動を設定する必要がある。

ウ 「思考・判断・表現」については、単元を通して①課題の発見、②解決、③表現の3段階が評価できるように工夫する。

エ 「主体的に学習に取り組む態度」については、単元を通してそれらの状況を見取ることができると単元の終わりに評価場面を設定することが考えられる。このことから、指導と評価の計画表の態度の評価欄において、点線で表記する。以下に、例として「単元（イ）応急手当（2）安全な社会生活」の指導と評価の計画を示す。

時	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	1 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを図などを見ながら説明を聞く。 2 応急手当について、習得した知識を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための方法をワークシートにまとめる。				ワークシート
2	1 日常に起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手当をグループ毎に実習を通して、理解しできるようにする。また、ワークシートにまとめる。 2 安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートなどに記述したりして、筋道を立ててまとめる。 3 単元を振り返り、学習したことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートにまとめる。	②	①		観察 ワークシート
3・4 (本時)	1 前時までの学習を振り返る。 2 心肺停止状態においては、速やかな気道確保、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用が必要であること、及び方法や手順について、確認する。 3 社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることを確認する。 4 心肺蘇生法の実習を行う。 ・グループ毎に行い、全員が実施する。 ・方法や手順を確認しながら行う。 ・よくできたところや課題をワークシートに記入する。 5 実習を通して学習した内容をグループ内で発言し合い振り返りを行う。		③		観察 ワークシート (授業後)

### 5-3 指導と評価の進め方～体育科編～(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) P92より)

新学習指導要領(体育科)	評価
教科の目標	改善等通知の「評価の観点及びその趣旨」
科目の目標	科目の評価の観点の趣旨
科目の内容	科目の評価規準
解説の例示等	単元の評価規準

新学習指導要領の体育科編には、「教科の目標」に続けて、「科目の目標」「科目の内容」が示されており、具体的な内容が解説に書かれている。評価との関係は上記のようになっており、単元の評価規準の作成については、科目体育と同様に、例示等の文末変換を行い、実態に応じて選択することとなる。(令和3年11月11日付け教高指第1795号「各教科・科目の評価規準(例)等の資料送付及び活用について」の『【保健体育】評価規準一覧(体育、保健、体育の各科目)』参照)

指導と評価の進め方に当たっては、設置者の定める標準単位数を踏まえて設定した単位数に応じて年間指導計画の作成と単元の設定を行った上で、指導と評価の計画を作成することが重要となる。指導と評価の計画の作成は、科目体育と同様となるが、体育科の特性であるスポーツの推進と発展に寄与する資質・能力を育成することに留意する。

## 6 指導計画作成に関する主なQ & A

Q1 科目体育における単元の目標について、該当年次で扱わない内容に( )をつけるとありますが、中学校3学年と同様の内容である入学年次の書き方について、留意点はありますか。

A1 様々な中学校から入学してくることに鑑み、事前にアンケート調査等を行ったり、各学校の実態を考慮したりしながら、指導内容を明確にした上で、当該単元で扱わない内容には( )をつけます。扱わない内容については、学び直しの充実が図られるよう他の単元で指導したり、( )の内容についても学習の振り返り等で取扱ったりするなど、学習漏れがないように配慮してください。また、年間指導計画を基に、その次の年次以降での当該単元の指導内容等も踏まえることで、単元の目標設定がしやすくなります。

Q2 指導内容において、指導しても評価しないことがあるのでしょうか。

A2 基本的に指導したことは評価しますが、P10の図2のように、様々な指導機会が考えられます。このことから、その指導をいつ評価する(見取る)かが大切となり、評価機会を適切に設定することが重要です。さらに、P10の図2の※印のように、既に指導し評価している内容については、学び直しや振り返りの観点から、記録に残す評価はしなくとも指導することなども考えられます。その場合、該当の指導内容をいつ指導し評価したかが重要となりますので、授業担当者間において、各単元の指導事項の共通化を図っておく必要があります。

Q3 「指導と評価の計画」において、評価機会がない時間の考え方を教えてください。

A3 A2でも触れましたが、様々な指導機会に応じて、①学び直しの時間、②記録には残さないが評価に活かしていく時間、③「技能」や「態度」のように指導したことを身に付ける時間、④主に努力を要する状況(C)と判断した生徒への手立ての時間等が考えられます。各観点の評価規準を設定した時間に着実に(記録に残す)評価をするとともに、評価したことをその後の指導等に生かす時間と考えます。



Q 4 科目体育における三つの資質・能力ごとに示されている指導内容は、全て指導し評価するのでしょうか。

A 4 まず、各学校において、3年間でどのような生徒を育成していくかを念頭に置きながら、見通しをもった年間指導計画を作成することが重要です。その上で、各学校の実態に応じて扱う指導内容を選択し評価することとなります。高等学校は領域選択を基本としていますので、同一の時間に扱う単元における指導事項の共通化を図りながら、指導内容に重複がないようバランスよく指導し評価することが大切です。当該単元で扱わなかった指導内容については、より効果的に指導し評価できる他の単元で扱うといった工夫も考えられます。

なお、高等学校で育成する三つの資質・能力の指導内容は、P5で示した「2 科目体育における三つの資質・能力の指導内容」であり、その具体的な指導事項が解説の例示に示されています。下表は、科目体育における指導内容において、【入学年次】と【その次の年次以降】の領域に示されている例示(「●」)の一覧ですので、指導計画を作成する際の参考にしてください。

◆科目体育における指導内容一覧表

●:主に指導する内容

資質・能力	項目	入学年次	その次の年次以降	入学年次							次の年次以降						
		指導事項		A 体 つ く り 運 動	B 器 械 運 動	C 陸 上 競 技	D 水 泳	E 球 技	F 武 道	G ダ ン ス	A 体 つ く り 運 動	B 器 械 運 動	C 陸 上 競 技	D 水 泳	E 球 技	F 武 道	G ダ ン ス
知識	1	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則	・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方	●							●	●	●	●	●	●	
	2	・技能(技)の名称や行い方	・技術(技)の名称や行い方		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	3	・体力の高め方	・体力の高め方		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	4	・伝統的な考え方	・伝統的な考え方						●							●	
	5	・交流や発表の仕方 ・踊りの特徴と表現の仕方	・競技会、試合、発表の仕方 ・文化的背景と表現の仕方		●				●	●		●	●	●	●	●	
	6	・運動観察の方法 ・見取り稽古の仕方	・課題解決の方法 ・見取り稽古の仕方		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
技能	(略)																
思考力、判断力、表現力等	1	体の動かし方や行い方		1 体の動かし方や行い方													
	1-1	・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントと理由を伝える	・動きを分析して良い点や修正点を指摘する		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	1-2	・自己の仲間の課題や練習方法について伝える	・課題解決のための練習の計画を立てる	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	1-3		・課題解決の課程を踏まえて新たな課題を発見する									●	●	●	●	●	
	2	体力や健康・安全		2 体力や健康・安全													
	2-1	・体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返る	・危険を回避するための活動の仕方を提案する	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	2-2	運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶ			●	●	●	●	●								
	3	運動実践につながる態度		3 運動実践につながる態度													
	3-1	・よりよいマナーや行為(所作)について自己の活動を振り返る	・よりよいマナーや行為(所作)について提案する			●		●	●				●		●	●	
	3-2	・分担した役割の成果などについて自己の活動を振り返る	・状況に応じて役割を提案する		●		●	●				●		●	●		
3-3	・合意形成するための関わり方を見付け、伝える	・合意を形成するための調整の仕方を見付ける	●					●	●				●		●		
3-4	・違いに配慮して楽しむ活動の方法や修正の仕方を見付ける	・違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付ける	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		
4	生涯スポーツの設計		4 生涯スポーツの設計														
	・運動を継続して楽しむための関わり方を見付ける	・生涯にわたって楽しむための関わり方を見付ける	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		
学び人に向かう力、	ア	共通事項(愛好的な態度)		ア 共通事項(愛好的な態度)													
		自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
	イ	公正		イ 公正													
	イ-1	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする				●	●						●	●			
	イ-2	フェアなプレイを大切にしようとする						●						●			
	イ-3	相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする							●							●	
	ウ	協力・責任		ウ 協力・責任													
	ウ-1	よい演技を讃えようとする			●								●				
	ウ-2	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする	●	●			●	●	●				●		●	
	ウ-3	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする			●	●		●	●			●	●		●	
	エ	参画・共生		エ 参画・共生													
	エ-1	話合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする	●				●	●					●		●	
	エ-2	一人一人の違いを大切にしようとする			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
オ	健康・安全		オ 健康・安全														
	健康・安全を確保する			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●		

Q 5 学習指導案の「本時の学習と指導」において、評価機会がない時間の「ねらい」は、どのように書くのでしょうか。

A 5 毎時間のねらいには、単元の目標に基づいて、本時の生徒に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、学習の進展状況を踏まえて具体的に示します。文末表現は「～できるようにする。」とし、評価機会を設定した時間は、当該評価規準と資質・能力の柱を文の後に〈 〉で表記します。

指導の重点化を伴った記録に残す評価機会が計画されていなくても、学習の流れに沿ってどのような活動ができればよいかを具体的に示します。例えば、P12図4の13時間目のねらいとしては、14時間目との2時間の中で「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準③「共生」を指導し評価する計画となっています。このことから、該当の評価規準の文末表現を変換した文と該当の資質・能力である「学びに向かう力、人間性」を〈 〉で表記することとなります。13時間目の展開においては、評価しませんので、評価規準及び「努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て」、 「十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿」は記入しません。

図4の1～4時間目においても、診断的な段階ではありますが、学習の流れに沿って具体的に示すこととなります。

## 【最後に】

Q 6 「内容のまとめりごとの評価規準」や「単元の評価規準」を作成する必要はありますか。

A 6 評価規準の作成は、学習評価の構造を理解するとともに学習評価の改善を図る上で大変重要です。また、埼玉県が目指す体育授業である「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」の実践を通して、教科「保健体育」の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力」の育成を図る上で、指導の方向性を示す羅針盤となりますので、各学校において作成をお願いします。

なお、参考資料として「[県立総合教育センター 学校体育コミュニケーションサイト](https://ecswb.center.spec.ed.jp/J001/)」の評価基準参考例 [中学校・高等学校] に、全ての「内容のまとめりごとの評価規準 (例)」と全ての「単元の評価規準 (例)」を示しましたので活用してください。

県立総合教育センター 学校体育コミュニケーションサイト  
URL : <https://ecswb.center.spec.ed.jp/J001/>



## 主な参考資料

平成28年12月21日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(中央教育審議会)

平成31年3月29日付け30文科初第1845号  
「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等 について(通知)」(改善等通知)

平成30年3月告示 高等学校学習指導要領(文部科学省)

平成30年7月 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説保健体育編 体育編(文部科学省)

令和元年6月 「学習評価の在り方ハンドブック」(国立教育政策研究所)

令和元年9月 「埼玉県高等学校校教育課程編成要領」(埼玉県教育委員会)

令和3年8月 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育」(国立教育政策研究所)

